



今月の主な目次

- 平成12年(庚辰)の天気占いの必要な年
天候変化を予測し要事前準備の必要な年
- みなさま、お待ちしました!
寒気冷地型「沃野」のご紹介
- 繁殖管理の基本
「1年1産」を実現するには?

- 新発売トウモロコシ紹介
「DK567」と「アラミス」
- アクレモバウダを使用した
上手なグラスサイドレンジ調製
- 製品紹介「スノードライバランス」
「スーパーライザー」

時の話題

世界の食料需給の動向

昨年夏制定された新農業基本法のもとに、食料・農業・農村政策審議会が発足し、有識者による食料をめぐる現状と課題等が検討審議されている。

国民の食生活の動向と国内農業生産の動向、食料自給率の推移と世界の食料需給の動向、といった我が国の食料をめぐる現状と、健全な食生活の実現と食料の安全性・品質の確保、国内農業生産の増大、安定的な輸入と食料備蓄等、といった食料の安定供給の確保に関する課題が検討テーマになっている。

この中で『世界の食料需給の動向』という項目について、次のように報告されている。

(一) 農業生産は自然条件の制約を強く受け、生産量が変動しやすいこと、また、生産に一定の期間を要することなどから、需給事情の変動に迅速に対応することが困難であるという特質を持っている。これに加え、農産物は基本的には、まずそれぞれの国の国内消費に仕向けられ、その余剰が輸出に回されるものであることから、生産量のうち輸出に回されるものの割合は概して低いという特徴がある。また、農産物貿易においては、少数かつ特定の国・地域が主要農産物の輸出について大きな割合を占める構造になっている。

(二) したがって、世界の食料需給は主要輸出国、あるいは大消費国における作柄変動等の影響を受け

やすく、そもそも不安定な側面が強いが、
① 農産物の主要輸出国は、一九八〇年代に過剰在庫に伴う財政負担や価格の低迷に苦しんだ経験から、在庫水準を圧縮させてきている。

② エルニーニョ現象等の異常気象が近年多くなつてきており、これによる農業生産の変動の可能性は高まっていることから、今後は短期的な不安定性が増大すると見込まれる。

(三) さらに、長期的には、世界の人口は開発途上国を中心に大幅に増加し、現在の五九億人が二〇三〇年には八一億人、二〇五〇年には八九億人に達すると見込まれている。

また、今後は開発途上国の消費水準の上昇が見込まれると共に、開発途上国のうち比較的高い経済成長が見込まれる、アジア地域を中心に畜産物の消費が拡大することに伴い、飼料用穀物の需要が大幅に増加するものと見込まれる。

これらの要因により、今後世界の食料需要は大幅に増加するものと見込まれる。

(四) 一方、供給面では、これまで品種改良や化学肥料の投入、かんがい施設の整備等による単収の増加によって生産の増加が支えられてきたが、今後は農用地の面的拡大の制約や環境問題の顕在化等、生産拡大を図る上での種々の制約要因があることも明らかになつてきている。

(五) 以上のような状況を踏まえると、世界の食糧需給は、中長期的にはひっ迫する可能性もあると考えられる。

と報告され、このことを前提に審議されている。

(取締役常務 小笠原 久志)